



2017

南房総道の駅 改修マスタープラン作成支援プロジェクト



[富浦、富山、三芳、和田、千倉地域]

実施者

《教員・参加者》 聖徳大学短期大学部 総合文化学科 デザイン・インテリアプランチ 教員、学生
 《協働パートナー》【行政】南房総市観光プロモーション課

背景と目的

南房総市には、8か所の道の駅があり、全国一の施設数を誇っている。道の駅は、観光客が立ち寄る地域の顔であると同時に、近隣住民が買物や食事等に訪れる地域拠点としても重要な役割を担っている。高齢者や家族連れ、旅行者など、多様な人々の利用を考えたユニバーサルデザインの施設づくりが必要とされており、本プロジェクトでは、南房総市内の道の駅をユニバーサルデザインの視点で点検し、課題や対策を検討した。

実施内容

市内の6つの道の駅をユニバーサルデザインの視点で調査した。調査した点は、主として出入口、トイレ、乳幼児やオストメイトのための設備である。

その結果、いずれの施設も車いす用トイレやベビーベッド、スロープ等が設置されており、車いす利用者や乳幼児連れなどへの配慮が見られた。また設備面でのユニバーサルデザインの配慮に加えて、トイレに花を飾ったり、メッセージを掲示したりするなど、暖かい“おもてなしの心”が感じられた。

今後の課題としては、使いやすいオストメイト用の設備や、授乳室などもさらに整備されるとよいと考えられる。また、車いす用のトイレやスロープがあることがわかりづらい場合もあり、案内表示をさらに工夫するとよいと考えられた。ホームページ上でも、施設案内の中にユニバーサルデザインの設備の紹介があると、初めて利用する人が安心して利用できると考えられる。「ちばバリアフリーマップ」*などにも、道の駅のバリアフリー・ユニバーサルデザイン関連の情報が出ているので、これらの既存のページにリンクを張る方法もある。*ちばバリアフリーマップ <http://www.pref.chiba.lg.jp/pbbfmap/menu.asp>

成果と課題

●地域貢献

バリアフリー・ユニバーサルデザインの視点で施設の使いやすさを点検することができた。見学の中で、南房総市の豊かな観光資源に気づくことができ、学内外の人に南房総市の魅力をPRすることができた。

●教育・研究面

道の駅には地域の魅力が集積しており、道の駅の視察は「観光まちづくり」や「地方創生」を学ぶ上で、大きな教育効果があった。

2018年	事前打合せ、実態調査（4施設）
1月	1 とみうら枇杷倶楽部 2 おおつの里 花倶楽部 3 三芳村 鄙の里 4 富楽里とみやま
2月	実態調査（2施設） 5 和田浦 WA・O! 6 ローズマリー公園
3月	調査結果のまとめ



とみうら枇杷倶楽部

全国道の駅グランプリ最優秀賞受賞駅。屋外通路もほぼバリアフリー。トイレの乳幼児用ベッドの脇にはカーテンと温風機があり、暖かくして授乳できる空間になっていた。屋外にある多目的トイレはやや離れているが、広さは十分でオストメイト対応設備があった。屋内も長いスロープがあり階下に移動可能。



富楽里とみやま

自動扉の入口。施設内はエレベーターで上下階の移動ができる。多目的トイレには荷物の置けるベンチがあり、「また来てネ 富楽里」のぬいぐるみが愛らしい。



和田浦 WA・O!

屋外にある多目的トイレには、新しいオストメイト対応設備やベビーベッドなどが設置されている。

*表彰・マスコミ掲載など

・特になし